

3 学期始業式 式辞

令和6年1月9日(火)

みなさん、おはようございます。新しい年を迎えました。本年もよろしく申し上げます。今年、辰年、「辰」は「振(ふるう、ととのう)」に通じ、「草木が成長して活力が旺盛になる」状態を指すそうです。今年、2024年は、「甲辰(きのえたつ)」、「甲」は亀の甲羅を形取った象形文字で、植物の循環では「堅い殻に覆われた種子が成長の時を待つ状態」を意味するそうです。ということで、これまで準備してきたことが実を結ぶ年ということになります。

昨年も、世界情勢は不安定で、ロシアのウクライナ侵攻に終息の兆しが見えないだけでなく、パレスチナでも戦争が起こり、私たちの生活に影を落とし、世界は不安定な状況が続いています。そんな中でも、コロナ後をどう過ごすか、学んだことをどう生かしていくかを問われる1年であったと思います。みなさんにとっても、様々な活動の中で、次の新しいステップに向けての準備に取り組むことができた1年だったと思います。みなさんのこれまでの努力が実を結び、「竜の水を得るが如し」という言葉のように、みなさんの秘めた力を存分に発揮できる年になってくれたらいいなあと思っています。

ところで、みなさん令和6年にチャレンジすることは決まりましたか？

2学期の終業式に、「これと思うこと」「やりたいこと」「好きなこと」に取り組んでもらいたい。それが見つかっている人も見つかっていない人も、「ものは見方によって変わる」ということを意識して一步一步進んでいってほしいというお話をしました。視野は広く、心にゆとりをもって物事を見るということなのです。空海も「一つの味だけでおいしいごちそうを作るのも、一つの音階だけで名曲を奏でるのも困難だ」といっています。一つに偏ることなく多分野を学ぶこと、異なる考えや価値観を取り入れ、自分の素材を増やしていくことで人生が豊かになります。昨年より成長した自分になるため、自分をしっかり見つめて、今の自分にできること、高校生の自分にしかできないことをしっかりと見極めて、一步を踏み出してほしいと思います。

ところで、「今後10～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い」といわれて久しくなります。この予測通り、スーパーの支払いやレジが自動化されたり、自動運転バスの実証実験が実施されたり、ロボットが飲み物や食事を運んでくれるお店もあったり…。では、予測通り、自動化が進み人はAIに取って変わられるのでしょうか？少子化が進み、労働人口が減少し、海外からの働き手も減少してきている現状から、未来の予測は考えられない速さで書き換えられています。

でも、どんな時代になっても人として大切なことは不変だと思っています。みなさんには、それを見失わず、どんな時代にも対応できるよう自身を磨いてほしいと思っています。

「人の価値は、その人が得たものではなく、その人が与えたもので測られる」
アインシュタインの言葉です。

この1年がみなさんにとって素晴らしい1年となることを祈って、3学期始業式の挨拶といたします。